

があらうと思うわけでございますので、そういったところにも提供できるような、やはり教育なりをできるような環境づくりをしながら、いろんなお持ちの皆様も一緒になってやれるような環境というのは、大事だと思っております。そうするにはやはり、市民の皆さんとの情報共有をしっかりとしながら、そのようにみんなで連携を取っていく形は、必要だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原洋子議員。

○7番（田原洋子君）

1月20日に、糸魚川市こころの総合ケアセンターで開催された第22回バタバタまつりの講演会、「行列のできるかも！？法律相談 これってどうなの？あったらいいなを学ぶ差別解消法」で、パネラーとして、糸魚川市聾啞協会の方がおられました。その中で、今まで我慢するのが当たり前で、我慢することに慣れてしまっている。ラーメン屋では、メニューを指さして、しょうゆラーメン、みそラーメンと注文ができるが、麺を固め、味はちょっと薄くというような注文は、しにくいと伝えておられました。こういう内容は、当事者や家族だけではなく、周りにいる私たちも、どこに困ったこと、不便なことがないか、考える必要があることだと思います。

また、発達障害の理解がないことで、特性から起こることを親のしつけが悪いとかというふうに誤解されて悩んでる方も多くいらっしゃると思います。

私たちは、機械ではなく人間です。一人一人の顔が違うように、得意なことばかりではなく、苦手なことは必ずあります。それをお互い理解すること、小さなことでもできることから取り組むことが、誰もが安心して暮らせる糸魚川をつくると思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原洋子議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。再開を10時50分といたします。

〈午前10時44分 休憩〉

〈午前10時50分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、横山人美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。〔3番 横山人美君登壇〕

○3番（横山人美君）

みらい創造クラブの横山人美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

「ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ」ための、保育園、幼稚園職員の人材育成と働き方改革の推進並びに教育的見地からの保育園、幼稚園の統合・民営化の推進の必要性について。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、この時期に質の高い教育が提供されることは極めて大切であると考えます。質の高い教育は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境が整えられるところから始まり、子供たちに携わる保育者の在り方は、その環境として大変重要な役割を果たします。

現在、国は、公私・施設類型の垣根を越えて、保育者の専門性の向上等の取組を一体的に推進するため、地方公共団体における幼児教育の推進体制構築事業を進めており、その中において、幼児教育の教育的・社会経済的効果として、質の高い幼児教育を受けることにより、その後の学力の向上や、将来の所得向上、犯罪率の低下等につながるという調査結果も示しています。これらの動きを受けて、新潟県でも、幼児の指導を担う保育者の資質能力の向上を図るため、幼児教育センターの令和4年度設置に向けて調整を進める動きがあります。

糸魚川市には21の市営、民営の保育園、幼稚園、こども園があり、約1,000人の子供たちが通い、1日の大半を過ごしており、園において多くの保育士や先生方が、日々子供たちのために懸命に向き合ってくださいています。しかし、頂いた資料によりますと、市営保育園の退職者数として、平成30年度から令和2年度の3年間で、正職員においては定年前の方々、会計年度任用職員においては毎年多くの方々が退職しており、保育士や先生の確保、保育・教育現場における職場環境の改善が必要なのではないかと懸念しております。

幼児教育施設における保育実践上、運営上の最重要課題として、保育者の資質の維持、向上が図られている今日、まずは、最前線で働く保育者の所得や地位の向上、保育者自身の能力を子供たちのために存分に発揮できる環境、それぞれのライフステージにおいて気兼ねなく働き続けることができる環境を整えることが大切だと考えます。

「ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ」目標を掲げる糸魚川市において、質の高い幼児教育と子供たちの健やかな成長の実現を願い、以下のことについてお伺いいたします。

- (1) 市営保育園、幼稚園における、正規職員と会計年度任用職員、パート職員の人数の割合と、それぞれの職務、勤務形態の差についてお聞かせください。
- (2) 保育現場では、子供たちの朝の受入れから夕方の帰宅まで、子供たちが目の前にいる限り職員には途切れのない勤務状態が続くと思われそうですが、働き方改革の視点において、どのような工夫をされていますか。
- (3) なれ親しんだ保育士も、初めて会う保育士も、子供たちに与える影響は大きく、保護者にとっても同様と考えますが、保育園、幼稚園における人事異動は、どのような視点を持って行っていますか。

また、園長、職員の人事考課（評価）は、どのように行っていますか。

- (4) 経験の浅い保育士と経験豊かな保育士には、それぞれ長所も短所もあると考えますが、保育経験の差から生まれる課題をどのような形で解消されていますか。
- (5) 公開保育の目的と内容、実施方法をお聞かせください。また、公開保育の結果を保育士や子供たちに、どのように生かしていますか。
- (6) こども課と保育現場との連携、コミュニケーションは、十分になされていますか。

(7) 男性保育士や男性管理職を積極的に保育現場に登用することは、男女共同参画を進める上で、また、社会の多様化による家庭環境の変化の中で育つ子供たちのためにより影響を与えると考えますが、いかがでしょうか。

(8) 国や県の動きに合わせた幼児教育の質の向上を目指すには、現状の糸魚川市の保育園、幼稚園には、施設の統合や民営化による保育士の所得と地位の向上、働き方改革も含めた思い切った改革が必要だと考えますが、お考えはいかがでしょうか。

以上について、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

    横山議員のご質問にお答えいたします。

    1点目につきましては、令和3年4月1日現在で、保育者のうち、正職員が43人、会計年度任用職員が130人で正職員の割合は全体の3分の1となっております。

    正職員は指導計画の作成や担任業務等を行い、会計年度任用職員は保育補助業務を行っていますが、一部の会計年度任用職員は担任業務を行っております。

    2点目につきましては、記録・書類業務の見直しなどによる負担軽減やICTを活用した事務改善を段階的に進めております。

    3点目につきましては、経験や実績などを考慮した異動としており、市の人事評価制度に基づき行っております。

    4点目につきましては、各種研修会への参加や、各園を巡回指導する「保育支援指導員」、「保育者支援アドバイザー」の配置により、保育力の向上を図っております。

    5点目につきましては、保育の質の向上を目的に行っており、他園で行われている保育実践を学ぶことで、自園における保育の見直しや保育士個々の保育力向上につながり、保育環境の充実が図られているものと考えております。

    6点目につきましては、園長等との定期的な保育連絡会議により連携を図るとともに、園訪問によって会計年度任用職員も含めた職員との懇談を行いながら意思疎通を図っております。

    7点目につきましては、性別を問わない保育の専門性が期待されていることから、今後も分け隔てなく採用・配置をまいります。

    8点目につきましては、保育士等の処遇改善や業務負担の軽減等を進めるとともに、保育ニーズへの対応や効率的な保育運営の観点から、適正配置、民営化についても検討してまいります。

    以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、どうぞよろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    横山議員。

○3番（横山人美君）

    それでは、（1）から再質問をさせていただきたいと思っております。

今ほど教育長の答弁に、会計年度任用職員も担任をすることがあるということですが、正規職員が担任の場合と会計年度任用職員、パート職員が担任の場合の仕事の内容の違いはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

担任という業務には、違いはありません。

ただ、責任という部分では、やはり会計年度任用職員に同様の責任を求めるとするのは、適当ではないというふうに思っておりますので、そこは園長や正職員が、フォローしているという現状であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

責任を持つという部分では、フォローが入るということは理解いたしました。クラスを担当するということは、保育士にとって、誇りや喜びでもある反面、重責でもあります。会計年度任用職員やパート職員が、給与形態も福利厚生などの雇用上の制度も異なるのに、正規職員とほぼ同じ業務をしなければならないのは、チームワークが大切な保育現場において、ゆがみになったり、確執や不満の原因になったりはしないかと懸念いたしますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

当然待遇は、やはり正職員と会計年度任用職員とは違ってきます。

ただ、今回、補正にもお願いしているように、国が、看護、介護、保育といった現場の職員の賃金を上げるという方針が示されて、補助事業になりましたので、そこは待遇改善に努めていきたいというふうに思っています。

担任をお願いする際には、十分理解してもらうように努めておりまして、担任には賃金の加算をしているところでありますが、懇談をする中では、やっぱりそういった負担という声も聞かれることは事実であります。今後も、やはりそういったところを解消するためにも、やはり正規の職員の採用を計画的に進めていかなければならないというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

その差ですね、差が埋まるような待遇をお願いしたいと思います。

幼児を目の前にすると、やはり同じような仕事をという感覚というのは、保育士の中には生まれると思いますので、よろしく願いいたします。

では、会計年度任用職員やパート職員が、正規の職員で働きたいと希望した場合、どのような方法がございませうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

正規の職員、正職員になるためには、市の採用試験を受験といいますか、受けていただく必要があります。そこで適性を判断して、正式に正職員になっていただくというものであります。

それとは関係ないかもしれませんが、会計年度任用職員の中には、無資格の方も多くいらっしゃいます。そういった方の中にも、やっぱりやりながら資格を取りたいんだという前向きな職員もいることが事実であります。環境改善に努めて、やっぱりそういった保育士の気持ちを上げていくということが大事なんじゃないかなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

市の職員として働くには、公務員試験が必要なことは理解できますが、保育士の仕事は体力も要り、そして、家庭との両立の場合は、そこに割く時間も取れないのではないかと懸念いたしております。向上心のある方は、お勉強をされて、テスト受けられるということなんです、現場において、客観的に見て、優秀な技術を持っている非正規の保育士が公務員試験に合格する条件があるために、正規職員にならない選択をするということは、糸魚川市の保育の質を向上させる上で、大きな損失になるのではないかとこの考えもございませう。労働上の身分に関係なく、優秀な保育士の技術が生かされる登用の方法を検討していただきたいと思ひますが、いかがでせうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

保育士、幼稚園教諭の試験につきましては、新卒の試験と社会人卒というか経験者卒を設けて実施しております。試験内容も変えて実施しておりますので、登用することはできる制度になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

試験の中に幅があるというか、違いがあるということで理解いたしました。

では、（2）の質問に移りたいと思ひます。

保育士の配置基準は、適正になされていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

正職員では、当然少ないために、正職員が少ないために配置基準は正職員だけでは満たせておりません。

ただ、フルタイムの会計年度任用職員であったり、パートの会計年度任用職員であったりといったところで、配置基準を満たしているというような現状であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

国での保育士配置基準は、あくまでも子供の安全を確保するために必要な保育士の最低人数とされていますが、クラスの中に障害や発達特性がある子供たちがいる場合は、どのように対応されていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

特性があるお子さんが園にいる場合は、園とも協議をしながら、加配というんですが、加配について園長や保健師などのアドバイスも聞きながら、協議をして、必要に応じて職員の配置を増やして対応しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

加配によって、手厚い保育がなされているということで理解いたしました。

もう一つ、国が定めた保育士の配置基準では、保育士が勤務をする全ての時間を子供との関わりに充てられるという計算でよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

基本的には、勤務する全ての時間を子供との関わりに充てるということになるかと思えますけれども、保育士配置基準は、必要最低限の人数でありまして、現場において、きめ細かい保育を実施するためには、やはり国の配置基準以上の職員配置が必要であるというふうに考えております。休憩等も必要ですので、そういったのも配慮しながら、引き続き、保育士確保、配置に取り組んでま

いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

次に、保育士の仕事として、まずは子供たちの安全や変化に細やかな配慮と観察、そして、子供たち個々に合わせた支援が必要であることが上げられます。給食の時間も、その一環であり、食育の中にある人との関わりという面において、保育士の果たす役割は、大きいことは理解しております。

一方で、保育士の労働環境に視点を移すと、私も幼稚園での勤務経験がございますが、ゆっくり昼食を取れた経験は、なかったと記憶しております。このような点を改善するための工夫は、保育園でなされていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

3歳以上のクラスにおきましては、食育も兼ねて、子供と一緒に給食を食べております。未満児クラスにおきましては、やはり介助といいますか、そういったものも必要になりますので、お昼寝の際の休憩時に交代で給食を取っているというような現状であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

先ほど休憩も含めてという、保育士さんの休憩も考えて、確保と加配に努めるということでしたが、現在、休憩はしっかり確保できていますか。また、どのような形で休憩をなさっていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃるとおり、子供を1日やっぱ見守りをしなければいけないということで、なかなか気の休まる時間はないというふうに思っております。お昼寝の際に、交代で休憩を取るなどしておりますが、そういったところも含めて、ちょっと現場の声を聴きながら、工夫できるところは工夫していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

お昼寝、午睡ですね、午睡の時間に休むということなんですが、午睡中には、なかなか寝ないお

子さんがいたり、中には落ち着かないお子さんいる場合は、保育士はその対応に追われることになります。

また、子供の午睡中、静かな時間にこそ、保育士は保護者対応としての連絡帳の記入や個々の子供たちの記録のためなどに休み時間を費やしていらっしゃるのではないのでしょうか。十分な休憩を取ることができるような、さらなる改善を望みたいところでございます。

では、子供たちの指導や支援の記録ということなのですが、個人情報となり、取扱いには十分な注意が必要と思われます。これらを勤務時間内で終わらせることができない場合は、どのような工夫がなされていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃるとおり、終始、先ほど申し上げたようになかなか時間が取れないというのが現場の状況だと思っています。そういった子供たちの記録であったり、保護者対応であったり、原則勤務時間内に終わるように努力はしておりますけれども、やっぱり間に合わない場合もございます。そういったときは時間外勤務を、対価を得るといことなんですが、そういった中で対応している状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

連絡帳や個人記録は、子供たちのことを思えば思うほど、先生たちはお時間をかけられるのではないかと私は想像いたします。そのほかに保育士の仕事には、園内の装飾飾りであったり、園内行事や保育教材準備など、細やかな仕事、現場でなければできない仕事がたくさんあります。勤務時間内にそれらの仕事がなされていますでしょうか。残業が必要になるのではないかと、先ほど残業ということなのですが、会計年度任用職員さんやパート勤務の方が担任になっている場合は、残業は認められていますか。また、残業などの賃金の保障はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほど申し上げたとおり、やっぱり一般職同様、勤務時間内で消化できずにやむを得ず超過勤務する場合があります。そういった場合は、当然、超過勤務手当、対価を支給しているという現状です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）



非正規の職員さんにもそのような対応がなされているということで理解いたしました。

では、例えば乳児クラス、赤ちゃんのクラス、個々の対応が必要な場合、パート職員が、もし対応していたお子さんについて、その職員さんが帰られたりして、いない時間に保護者からの問合せがあった場合、同じクラスといえども、一日を通して担当していない保育士が問合せに答えることは難しいと思われませんが、勤務形態が違う保育士間での情報共有は、正確にできていらっしゃるのでしょうか。また、そのような時間の確保は、勤務の中で可能でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

園内のできる限りの情報共有というものは、やっております。

ただ、先ほど来、申し上げているとおり、なかなか時間が取れない。それで、パートの職員もいますので、やはり勤務時間はまちまちであります。そういった中で、できる限り状況に努めておりますが、保護者対応ということで、問合せということに関しては、急な問合せなどあった場合には、やはりその情報共有の中でお答えできるものはお答えすると。

ただ、やはり見ていた担当に確認する場合も出てきます。そういった場合には、担当に連絡を取って、折り返し保護者にご連絡をするというような現状にあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

大切なお子さんを預けている保護者の方も、安心してお預けできるよう情報共有を努めていただければと思います。

保育士ばかりではなく、仕事と家庭の両立は、社会の大きな課題の一つだと考えます。家庭や家族の理解があってこそ、一社会人として社会に貢献できるものと考えます。中には、育児や介護をしながら頑張っている方もいらっしゃると思います。そのような方々も、負担なく社会に参加し続けることができるような職場環境が大切だと考えております。

それでは、（3）番の質問に移りたいと思います。

私は、過去に産休の代替えで年度途中から幼稚園のクラス担任をした経験がございますが、そのときにやはり子供が夜泣きをするようになったという訴えを頂いた経験がありまして、幼児にとって、なれ親しんだ先生がいなくなるということ、全く知らない先生に急に担任されるということは、子供たちや保護者にとって、大きな影響を与えると感じました。

なれ親しんだ保育士が、異動で園からいなくなるということは、小学生以上の子供たちが経験する先生の異動とは、少し意味合いが違っていると感じております。

先ほど教育長から、その利点についてお伺いいたしましたが、現場では、どのような受け止め方がされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

おっしゃるとおり、なれ親しんだ保育士が、卒園するまで担任をするというような状況は、子供たちにとってはやっぱり不安がないということになるかもしれません。

ただ、子供たちの育ちという意味では、やっぱり育ちという人間関係の構築といいますか、そういう土台という面からは、やっぱり新たな担任との出会いというのは、その子供たちにとっても刺激になる部分も十分あるというふうに思っています。保育現場の状況を考慮した配置に努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

保育士の異動に関わる利点、現場での受け止め方は、理解いたしました。子供の中には、担任の先生以外の周りにいる子供たちが、その先生を頼りにしている場合もございます。子供たちの細やかな心の動きを受け取った、また異動というものも考えていただければと思います。

一方で、民間の保育所のように、保育士や先生が代わらずいてくれることにより、子供たちが小学生、中学生、中には大人になっても園を訪ねてきてくれる場合がございます。単に懐かしく訪れる場合もありますが、子供の成長過程においては、先生が代わらずにいてくれる安心感が、時に心の支えになる場合もあるのではないかと考えております。

それでは、次の質問に移ります。

園長の人事考課ということなのですが、どなたが行っていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

園長の人事考課につきましては、市の制度に基づきまして、一次考課、二次考課とありまして、評価ですね。一次評価につきましては、担当の係長、二次評価については、私、こども課長が行っております。

当然、人事評価の制度には、当然、面談という部分もありますので、面談につきましては、担当係長が行っているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

では、園長になる職員には、資格や保育技術のほかに、何が求められますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

当然、ある程度の経験や実績等が必要だと思っていますし、資格なり保育技術など、専門性以外の部分については、やっぱり園をまとめるといいますか運営をするといった意識や力というのが、当然、専門性以外の力も必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

園長は、必ずしも保育士の経験がなければいけないでしょうか。民間の施設では、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

市内の民間の状況は、やはり資格をお持ちになった園長がいらっしゃる園のほうが多い状況です。ただ、資格がなく、園長を務めていらっしゃる園もございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今頂いたご答弁は、後ほど7番の質問につなげます。

それでは、（4）の質問に移りたいと思います。

新人の保育士は、具体的にどのような職務を担当しますか。最初から担任などを経験する場合の負担は、どのように軽減なさっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほど来、申し上げているように、やはり保育士の確保が非常に難しい状況の中で、新採用の職員にもやはり担任をしてもらわざるを得ない状況にあります。

ただ、園内で当然フォローするなど、負担軽減に努めておりますし、新採用となる職員の中には、市の会計年度任用職員を1回経験されて新採用となる場合もございますので、そういった方については、もう状況を知っております。いずれにしろ新採用という立場で、非常に入ってすぐに重い重責を担ってくださっておりますので、当然、責任で押し潰されないようにしないといけないと思いますので、そこは園内でフォローするように努めておりますし、また、こども課のほうからも園と連携を取って、そういった重責を取り除くように努めていきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

中途採用の保育士の中には、ほかの保育園や幼稚園などに勤務経験がある方もおられると思いますが、そのような方々の視点の違う豊富な技術は、日々の保育の中に生かされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

中途採用に限らず、やっぱりそれぞれの保育士が、やっぱりそれぞれの経験、思いがあるんだというふうに思っています。それをお互い認め合って、保育観を語り合っているといいですか、そこで折り合いをつけて、子供たちに向き合っていかなければいけないとっておりますので、やはりそういった園内での意思疎通といいますか、そういったコミュニケーションが必要だというふうに、その上で、やはりおのおの力を発揮してもらうという環境が必要だと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

私も初めて担任をしたときに経験があるのですが、新人の正規職員と経験豊かな会計年度任用職員という雇用の差がある構図で、1つのクラスを複数で担任する場合、立場の逆転や保育における遠慮や気後れなどの負担はいかがでしょうか。

また、保育の責任の所在において、正規職員に負担が大きくなる場面はございませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

当然、先ほども答弁しました新採用の職員も担任になると。複数担任ということで、経験豊かな、例えばパートの会計年度任用職員が、一緒に働く場というのは、市内公立園においては、そういう場面はあります。

ただ、経験の差を埋めることは、どうしてもできません。できないとっております。ただそういった場合、新採用の職員、若いといいますか、職員の精神的な負担は大きいんですけども、そこは見守ったり、アドバイスをしたり、負担にならないような人材育成という観点から、やっぱり保育に当たることというのも必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

折り合いをつけるということですね。

それでは、園長の方針と現場で子供たちと過ごす保育士との間に、保育観のずれが生じることはございませんか。また、ずれが生じた場合、どのように歩み寄っていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

当然、人間ですので、園長なり保育士、それぞれ保育観もやっぱり違うと思います。

ただ、そういったところは、日々コミュニケーションを取ることによって、相違することも、先ほど申し上げました折り合いをつけて、園内で一つになって保育に当たってもらっているというふうに思っています。そういったところを折り合いをつけて、コミュニケーションを図りながら、子供に向き合ってもらっているというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

先ほどから折り合いをつけるということなのですが、そのつけ方が、日々の保育の中で大きなプレッシャーや課題になることがございますので、円滑なコミュニケーションがなされる環境づくりをぜひサポートしていただきたいと願います。

次に、日々進歩する幼児教育の知識を身につけることは大切だと思いますが、保育の質の向上を目指した研修は、どのように取り入れられていますか。園内研修の時間の確保は、難しくありませんか。外部の研修を十分に受けられるだけの人員体制は整っていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

新潟県の保育連盟というのがございまして、そういったところの主催の研修会が、年に何回がございまして。そういった場合は、各園から何名かずつ、少しずつまとまって研修を受けてもらっています。

ただ、研修を、やっぱり園内が手薄になりますので、そういった場合は、代替えの保育士さんというのが、今、自宅でいらっしゃる保育士さんがいらっしゃいますので、そういった方に1日頼むと、お願いするというところで、園内の配置を適正に保つようには努力しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

理解いたしました。

それでは、（5）番の質問です。

園において、公開保育が実施されているということですが、公開保育を立案・担当することが、保育士の負担になっていることはございませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

公開保育については、先ほど教育長の答弁のとおり、やっぱりほかの園の保育を見る。それを自分の園に持ち帰るということは、非常に大切なことだというふうに思っています。以前から公開保育を実施しておるわけですが、やっぱり見られる側については、やはり少しプレッシャーもあるというふうな声も聞いています。そういったところをやり方といいますか、そういった先ほど折り合いをつけるというようなところも申し上げましたが、そういったところで工夫をしていきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

公開保育の担当になった園は、公開保育に向けての資料作りやクラスづくりに追われるという声も聞いております。保育士の保育の質を高めるために緊張感を持って公開保育に取り組む大切さや、前向きな取組は理解できますが、必要以上のプレッシャーは、逆効果ではないでしょうか。公開保育でなくても、飾らない日々の保育、ありのままの保育の中に子供たちの本当の姿や課題、保育士としての関わりや学びがあると考えますが、いかがでしょうか。公開保育をしなければならない決まりはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

公開保育をしなければいけないというような決まりはございません。

ただ、自身を高めるためには、やはり何がしかの研さんというのは必要だと思っています。やり方も含めて、それは工夫をしていきたいと思っております。

公開保育、そういった先ほど申し上げたプレッシャーという声も聞きましたので、本年度から、公開保育にはいつも大学の先生から来ていただいて、見ていただいているんですが、大学の先生のみをお招きして、議員おっしゃる、ふだんのありのままの保育を今は見ていただくような機会を今年度から設けまして、各園、年に2回ですが、大学の先生からおいでいただいて、何気ない保育を見ていただいて、感想を頂くというような取組を始めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

理解いたしました。

市営と民間の大きな違いは、保育や教育内容のレベルが一定か、独自の教育方針があるかだと思います。

います。大先輩の保育士の話によると、糸魚川に浦本保育園と西海保育園しかなかった頃は、地元の方々にお手伝いをいただきながら、浦本保育園では海に入ったり、西海保育園では田んぼの中を、野道をお子たちが走ったりしたそうです。現在の保育園に丸々当てはめるわけにはいきませんが、糸魚川市には大変豊かな自然がございます。海や山の自然を生かした保育の展開は、現代だからこそ必要で、かつ糸魚川への愛着を育てる上で大切だと考えます。このような保育や教育を取り入れるための手段や特色ある保育園を展開する方法として、民営化の提案ができるものと私は考えております。

次に、（6）番の質問に移りたいと思います。

こども課の職員が保育現場に赴くことはございますか。あるとすれば、どのくらいの頻度で連携を図っておられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

市内には10園、公立の園がございます。その全て、定期的にといったようにはいきませんが、担当係長を含めて、できる限り訪問するように努めているのが現状であります。今、新型コロナの影響もあって、保護者には、なるべくお迎えも1人でというようなことも、制限といたしますか、お願いしている中で、そこの感染状況によっては、やはり行けない場合もございますが、できる限り回っているというふうな現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

こども課が推進したい行政計画と最前線で働く保育士や園長との意見のすれ違いなどがあることはございませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

当然、先ほど来、申し上げたように保育士同士でもやはり考えが、保育観が違っていると申しましたが、やっぱりずれというのは、当然ございます。

ただ、子ども一貫教育に基づいて、公立、私立問わず、就学前の子供たちの育成に当たっておりますので、基本的なところは共有できているというふうに思っています。

現場レベルの相違はないわけではございませんけれども、やるべきことはやらなければいけませんので、現場の立場に立ちながら、同じ方向を向いて保育に当たっていくようなコミュニケーションだったりを取っているつもりですけれども、今後もそういったことに注力していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

これは、こども課だけではなく、退職される方が多い現場では、心に秘める苦しさや悲しみが、悩みが多いのではないかと推測いたします。ほかの職員や上司がいる中では、なかなか言えないような本音を語れるような個別の相談体制の構築が必要であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

園に限ったことではありませんけれども、職場というのは、何でも言い合える風通しのよいものでなくてはならないというふうに思っています。そういった中で、職員一人一人からお話を聞ければいいなというふうに思っていますが、170人を超える職員の中で非常に難しい部分もございます。年前から、各園へ行きまして、職員全員と懇談をするという機会を設けたところであります。そういうところを継続しながら、懇談の際には、やはり何かあったら、その場で言いづらいというようなご意見もあったので、何かあったら幾らでもこども課のほうに言ってきてくださいというような投げかけをしておりますので、まずそこを継続しながら雰囲気づくりに努めていきたいなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひよろしく願いいたします。

保育士の働く環境においては、様々な文献や記事を読む中で、また、私自身が35年前になってしまいうんですが、働いていた環境と今日の状況を比較しても、長年の日本全体の課題ではないかという結論にたどり着いております。20代、30代、40代と働く女性にとって大きく変化のあるライフステージにおいて、中にはご自分のお子さんと向き合う時間を削りながら懸命に勤務されている保育士もいると思います。

昨今の子育ての中で引き起こされる事件、また、子供同士や若者が、簡単に人の命を奪ってしまう事件に触れるたびに、家庭での子育て、そして、家庭を支援するための幼児教育や保育の質の重要性が求められていると考えます。糸魚川市における保育の質を保つため、優秀な人材を失わないための職場での信頼関係のさらなる構築を願いたいと思います。

では、(7)番の質問に移りたいと思います。

糸魚川市において、男性保育士の雇用は、今までにございましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）



正職、会計年度任用職員含めて、今まで実績がございます。教育長答弁にありましたとおり、お辞めになった職員もおりますので、今現在は2人、男性保育士がおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

（3）の質問と関連いたしますが、首都圏に保育施設を展開する社会福祉法人では、多様性を視野に入れて、男性の保育士を積極的に採用している保育所もございます。幼児教育や保育に携わりたいと目指した保育士の多くは、全国的、歴史的に見ても女性が占めてきましたし、現在も多くは女性でございます。女性が多いとされる職場の概念を変えていくことも大切な要素だと考えます。

次に、（8）番の質問に移りたいと思います。

国が進めようとする保育士の質の向上を図るには、まず、1番から今ほど質問いたしました働く環境を整えることから始まると考えます。保育士の働く環境を整えるためにどのようなことが上げられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

教育長が先ほど答弁したとおり処遇改善、それは今、補正でもお願いしました、先ほど申し上げました待遇改善を図っていくこと。

もう一つは、やっぱり記録だったりそういった負担が、やることが非常に多くて保育士の負担になっているというふうに思っておりますので、今、そういった負担を軽減できるようにICTの活用も含めて、そういった負担軽減を図るところだと思っておりますし、併せて、教育長答弁のとおり、民営化等も検討していくということだと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今回の一般質問に立つ前に、糸魚川市の保育士としてご尽力されてきた方々や、あとそのご家族、そして子育て世代の方々と、糸魚川市の幼児教育の質の向上を目指すという点で、建設的な意見交換をさせていただきました。

その中で、皆さんは異口同音に、まずは現場で働く保育士さんの笑顔が輝き続けることで、子供たちによい環境を与えてほしいとおっしゃっていたことが、大変心に残りました。子供たちの前で笑顔になれない。子供たちと関わるよりも、職場での人間関係が気になってしまうと。残念ながら保育士として働くことを諦めた方々の言葉の中に、それでも子供たちと関わる仕事を諦めたくないという思いが、強く訴えられていると受け止めました。子供たちが大好きで、夢と希望を持って保育士を目指した方々の笑顔が輝くために、何を変えなければならないか、賃金の課題であり、働き続けることができる保障を含めた安心感であり、心の安定を含めた職場環境の改善なのではないで

しょうか。

労働に対して、適切な対価が支払われるためには、今の糸魚川市の保育園の在り方に無理はないか。個々のライフステージにおいて、安心して休める環境、復帰できる環境が、平等に整えられているか。それぞれの保育士が持つ個性が、思う存分発揮でき、大きな調和となっていて、子供たちの成長に生かされる職場になっているか。今こそ課題としっかり向き合い、改善していくときではないでしょうか。

子供たちの成長に一番大切なものは、身の周りにいる子供たちの周りに大人の明るい笑顔であります。本日の項目は、意見交換をさせていただいた皆さんが、糸魚川市の子供たちを思い、届けてくださった大切な声であると受け止めていただき、「ひとみかがやく日本一の子どもを育む」目標を掲げる糸魚川市において、質の高い幼児教育と子供たちの健やかな成長の実現を願い、市長と行政の皆さんの思い切った改革を期待いたしますが、市長、教育長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり人間形成の私は一番大切な年齢といいましょうか、位置づけは、どの辺にあるかという、やっぱり幼児にあります。その幼児教育の中において、やはり保育士さんや、また先生の果たす役割というのは、非常に大きいものがございます。そういったときに、やはり今、議員ご指摘の点について、それが今、糸魚川市にとって本当に適切にそうなっているのかというのを再確認しながら、また、この民営化につきましたり、また待遇改善についても、再度検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

今ほど米田市長が答弁したとおりなんですけれども、私の立場からは、やはり糸魚川の教育の基本的、根幹的な部分は、子ども一貫教育方針、あの中にいろんな思い、願い、それが込められています。その中の土台づくりに乳幼児、子供たちの、あの土台の部分があるわけです。そうやってきますという、やっぱり働く環境というふうな部分をどのように見つめて、現状分析して、これからどんな方向が求められるのかという部分については、いろんな方々とまた相談しながら検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひとも子供たちのため、そして、現場で働く皆さんのためによろしく願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩いたします。再開を1時といたします。

〈午前11時47分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。〔2番 阿部裕和君登壇〕

○2番（阿部裕和君）

みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、青海シーサイドパーク・須沢臨海公園の活用について。

青海シーサイドパーク・須沢臨海公園はキャンプ場をはじめ、ヒスイが拾える海、子供が伸び伸びと遊べる芝生の公園、パターゴルフ場など、多様な遊び場が集結するスポットとして、全国から足を運んでもらえる人気のエリアです。しかし、同エリア内にあるドームなぎさは倒壊のおそれがあることから、1年前から立入禁止措置が取られており、いつまでもこの状態が続くことは、当市の印象を落とし続けることとなります。今後このエリアをより一層活用し、交流人口の拡大、利用者の満足度向上を図るべきと考え、以下伺います。

(1) 立入禁止措置が取られているドームなぎさですが、周辺地域全体としても一刻も早い修繕を望んでいます。ドームなぎさの現在の状態及び改修についての進捗状況を伺います。

(2) ドームなぎさは大型休憩スペースとして位置づけられていますが、その他の利用方法、許可される用途について、具体的にお聞かせください。

(3) パターゴルフ場の利用者数が少ない状況ですが、原因は何だと捉えていますか。

(4) パターゴルフ場の利用者数増加を望みますが、市としてはどのようにお考えか、お聞かせください。

2、市内小中学校の空調設備設置状況について。

近年の猛暑を受け、各自治体でも学校の空調整備が大きく進んでおり、整備の対象は教室から体